

# 想



平成23年  
9月号

発行元  
株式会社 水口  
044-333-5678  
川崎市渡田  
3-2-16

## 災害とお墓の現実

平成二十三年三月十一日に起きた東北地方太平洋沖地震から半年が経過しました。水口の協力会社である石屋が茨城にあります。震度六弱を記録した茨城では、屋根瓦が落ちた家かなりの数あるそうです。ただし、九月時点でまだ瓦が入荷しないためブルーシートをかけている状態です。もちろん、お墓も倒れた状態で、秋のお彼岸までに

### 石屋としての責任

全てを修復することはできないそうです。水口では、川崎で大きな地震が起きた時に少しでも被害を少なくしたいという思いで、新潟県中越沖地震発生後から石塔無料耐震を進めてまいりました。地震が起きる前に出来ることがあると考えています。これからも水口は、災害が起きた時の被害を最小限に抑える活動を続けていきます。



### 水口は皆様の想いを形にします。

株式会社水口は、昭和九年に創業し、墓石・仏壇・仏具の販売に携わってまいりました。気持ちや想いが熱く込められているお墓を扱うの一番大切なのは人だと思っております。お客様との対話にこだわり、商品にこだわり、結果として少しでも社会に貢献できればと考えています。水口では社

員自ら施工します。施工過程をアルバムにして、最長二十年の保証書と共に渡します。耐用年数が落ちないように、見えない部分にも御影石を使用し、各種耐震工事を行います。お墓は建てたら終わりではなく、建ててからお付き合いが始まります。これからも、お客様の想いを形にするために全力で邁進していきたく思っております。

写真前列右下から専務水口衛、佐藤営業部長、社長水口勉、唐澤施工部長、後列右から営業部員崔、梁施工部員岩谷、何

## 豆腐チゲ



豆腐チゲはたんぱく質が豊富な豆腐とアサリがよく合い、韓国料理のお店でもよく出されます。

## 燕の家

営業部崔 海燕のこだわりレシピ

- 一材料—  
豆腐(絹) 200g、豚肉切れ 50g、アサリ 150g、卵 1個、長ネギ 半分、みじんんにく 大さじ半分、唐辛子の粉 大さじ半分、ゴマ油 大さじ半分、塩と味の素少々、ラー油、お水小さいコップ3杯

一作り方—  
まず、豚肉にみじん切りにしたニンニク、みじん切りにしたショウガ、醤油、少々、ゴマ油大さじ半分、コショウを入れ、少し置いておきます。

熱した鍋に油を少し入れて唐辛子の粉を入れて赤色になるよう素早く炒めて唐辛子油をつくります。素早くやらないと黒く燃えてしまうので注意が必要です。

鍋にゴマ油と唐辛子の粉を入れて弱火で少しの間炒めて辛い香りを出します。唐辛子の粉を炒めたところに豚肉を入れて炒めます。豚肉に火が通ったら水を注いで砂抜きしたアサリを入れて沸騰させます。

アサリに火が通って口が開いたら豆腐を入れてみじん切りにしたニンニク・塩を入れて少しの間さらに沸騰させます。豆腐自体に水分が多いため、途中で水を追加しなくても大丈夫です!

汁に豆腐が交わるように沸騰したら卵を入れます。半熟程度でネギをさくさく切って入れて火を消します。  
ポイント：チゲは沸騰した後は弱火にします。弱火で徐々に沸騰させてこそ濃く深みのあるスープになります。

## 想

昔からお墓とは、ご先祖様への感謝を表すものでありました。時代と共にこの考え方がふくらんで、ご先祖様を大事にしていれば恩恵を与えて下さり守ってくれるという考えになつたようです。お墓はご先祖様を守るだけでなく、心の支えとなり安らぎを与えてくれる貴重な役割を担ってきたのです。

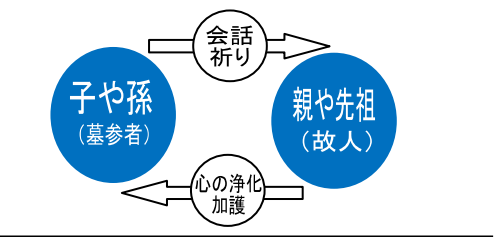
### 最新の耐震施工

お墓の耐震・免震も随分と開発が進んでいきます。耐震用の接着剤、金具を使用するの免震、ゲル状のものを石と石のあいだに入れる免震等多様です。そんな中、今回ご紹介する金具を使用した免震は、画期的な商品です。お石塔の石と石の接着面にステンレスの金具を取り付け、その金具同士をつないでロックします。接着剤施工と違い、はずすことも可能です。日本石材産業協会の震動実験において、この免震金具は震度七にも耐えることが実証されました。

### お墓参り

日本人の本来は家が基本です。その代表として、お墓参りの文化に表れているでしょう。但し、現在の社会は「無縁社会」になる傾向が強まります。一体どうなつたのでしょうか？  
お墓参りの本質をもう一度理解すれば、本来の社会に戻るかもしれません。文 何良強

- ### 子や孫は、お墓参りのときに何をやるか？
- ・現状報告や所信表明などの「会話」
  - ・親や先祖に守ってほしいという「祈り」
  - ・あの世での幸せを「願う」など
  - ・生前の関係性が近いほど、「会いに行く」という感覚が強くなる



### お墓参りで得られる感覚

- ・清々しい、すっきりした、良いことをした気分になるという「心の浄化」
- ・最も身近な神様として、自分や家族を守ってくれるという「加護」など



要望に答えて、ベストサポートを目指して頑張ります。文 佐藤 剛

編集後記  
今回が正式な第一号となりました。実は、七月のお盆に臨時準備号を発行したのですが、誤字脱字に、新聞の基本を無視したレイアウトと散々なものでした。見かねたお客様1様から見本となる新聞にポイントをメモしたものをいただき参考にさせていただきます。まだまだ改善すべき箇所がたくさんありますが、皆様に楽しく読んで頂けるような内容にしていきたいと思っております。  
唐澤 昇司